

お知らせ

地質標本館特別展

「東日本の滝と地質 —北中康文写真展—」

協力：株式会社 山と溪谷社

山に降った雨は小さな谷に集まり勢いを増し、やがて大河に合流し海に至ります。水流は砂やレキを動かして岩盤を削り、谷に豊かな表情を与えます。滝は、大地を素材にして水流という彫刻家が作り出した作品です。そこには、硬い、柔らかい、割れやすい、削れやすいなど、岩石のクセがあらわれています。

地質の研究者にとって、沢は大切な調査ルート。山全体が樹木に覆われていても沢の中は岩盤の露出が良く、観察や試料採取が行いやすいからです。岩盤が大きく露出した滝はとくに効率の良い情報源となります。地質家は滝に近づいて岩石を見るだけでなく、岩石と水との長い年月にわたる相互作用について考えます。

写真家にとっても、滝は魅力的な素材です。滝の全体が姿良く見通せる場所の選択だけでなく、水が岩を打つ軽い音、滝壺を震わせる重い音、霧を含む空気の清涼感などをいかに表現できるかにもこだわります。

同じ滝を前にしてアプローチも読みとる情報も違う地質研究者と自然写真家が、それぞれの“得意技”を持ち寄り、滝の魅力について市民と語り合おうという趣旨で、特別展「東日本の滝と地質」を企画致しました。滝という万人に魅力ある自然現象を糸口として、市民の皆様が地質や地球科学に興味を深めて下さること、そして地質図をはじめとする多様な地質情報を有効に活用して下さることを願っています。

今回の特別展では、「日本の滝①東日本661滝」(山と溪谷社)掲載の写真から、地質の特徴をよく表しているものを24選び、滝の写真と地質解説、そして滝を構成する岩石を対応させて展示いたしました。

北中康文氏撮影の写真から全紙大プリントを作成、また、それぞれに対応する地質解説を地質調査総合センターの研究者に執筆していただきました。

滝を構成する岩石としては地質標本館の登録標本および現在研究中の岩石を展示いたしました。

今回はスペースの都合上大型プリントを展示できなかった滝についても、地質解説や写真をA0ポスター4枚に展示しました、また、滝の形態分類や岩石の分類の解説パネルもあわせて展示しました。

また、今回紹介された滝を含む地質図(5万分の1から20万分の1や火山地質図など)と20万分の1シームレス地質図を自由に見られるようPCも設置いたしました。

展示期間は4月19日から7月18日までです。皆様地質標本館へご来館ください。

